

カナリヤ通信



第3号

「カナリヤ通信」では、さまざまな考え方をもちた女性が、社会の中で運よく、それでいて女性らしく声を出して、人生を楽しみながら働く姿を表現していきます。

～働き方について考え、気づく～

キャリアアップ 村木厚子さんに聞く

今回は2月10日、テーマはWLBです。

同僚の夫とともに2人の娘を育てながら、中央官庁のキャリア官僚として働き続けた村木厚子さん。厚生労働省事務次官を昨年退職し、「ことしは2人目の孫が生まれる予定なの」と顔をほころばせる。「いくつになっても発見がある。だからこそ今までできなかったことにチャレンジしたい」と、今後について意欲的に語る村木さんの歩んできた道のりと、自身の仕事スタイルについてお聞きしました。

女性も男性も能力に差なし

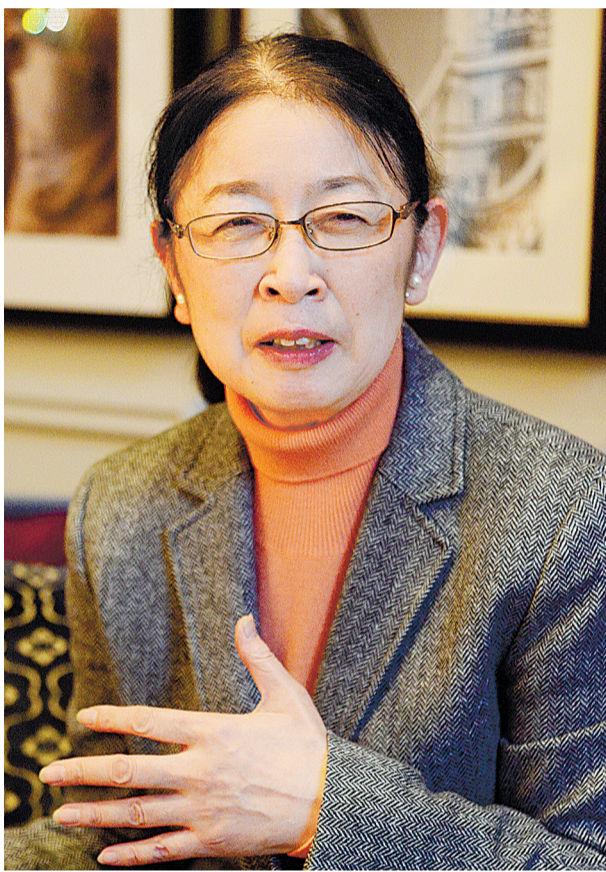
女性も男性も能力に違いはありません。確かに体力的な差はありますが、出陣は女性にしかできませんが、基本的には変わりがないと思います。どの企業のトップに聞いても同じことを言います。「女性の方が優秀だ」というトップも多いです。建設業界の女性活用について言えば、将来性があると思います。人材不足であれば女性が入職しやすいように環境を改善する企業も増えるでしょう。そのうち企業には優秀な人が入ってきます。

30年以上前、私が労働基準監督署の職員として作業服を着て建設の現場に監督に行ったとき、不思議な体験をしました。それは、現場で働く人たちがまるでお化けでも見ているように私を見るのです。見えないはずのものがあるという視線に私は驚きました。それもそのはず、当時としては、現場で働く女性職員はあまりいなかったのです。それから、びくつきを通り越してあり得ない存在に直面して、自分の目を疑ったのでした。時代は変わって、今は女性がいるのが当たり前です。ある企業で、女性の昇進がストップしました。

「辞める」選択は最後の手段

辞めるという選択は最後の手段でいいと思います。出陣や育児・介護など仕事との兼ね合いを考えると、逆にはいけない時期があるかもしれません。私の経験上、大変な時期でもなんとか乗り越えて、素晴らしもあります。やれるだけやっつけて、逆にはいけない時期があるかもしれません。逆にはいけない時期があるかもしれません。逆にはいけない時期があるかもしれません。逆にはいけない時期があるかもしれません。

実力は能力と経験値のかけ算



村木 厚子さん (前厚生労働省事務次官)

社長が、昇進を決める選考委員に理由を聞いてみる。女性に選ばれるかというのです。それを聞いた社長は「立派な仕事ができる社員を昇進させるべき」と言って、選考委員を昇進させたい。先ほどお話ししたとおり、能力的な差は基本的にはないのです。あとは経験値のべらべら積みだか、つまり本来の能力を経験値のかけ算によって社員の成長や仕事の能力(実力)が決まるので

す。女性も同じ社員です。男性と分け隔てをすることなく同等に仕事を任せたいことが必要です。そしてその際に、企業のトップや上司が責任をもって、女性にも積極的に働いてもらいたいというメッセージを出すことも忘れてはいけません。

育児はマイノリティー要素ではない

一方、女性も根拠を低くする必要はありません。私は何でもできます。この仕事だっています。なにより上司にアピールすることで相互理解が深まり、より働きやすい環境が整備されると思います。そのためには、評価制度はしっかりしていないとダメです。

男性社員は休まず働いているから、育児を取っていいものはない。休むことは決してゼロやマイナスの要素ではありません。私や村木・育休から管理職として復職したあと、査定・評価は以前と比べて上がりました。その理由として、上司から「子どもを持つ前より部下

非生産的な悩みは無駄

女性にどうしてキャリアアップのキーワードは「成長」「社会的意味・意義」だと思います。そういったキーワードにつながる仕事を上司が増やして、企業に貢献していただくのはいいことではないか。これは男性社員にどうも言えないことだと思います。

育児期間中は同僚に迷惑をかけてしまつて考えがちな悩みですが、それは間違いです。非生産的で無駄です。育児中だから70・80%しかできないと悩むより、具体的に何をすれば効率が上がれるかを考えた方がいいです。そして、いずれ自分にとって100%の仕事ができる時期が来たら、今までの借りを返すぐらいの勢いで頑張ればいいのです。

すべて経験し人生楽しんで

霞が関で約38年働きましたが、働くのは本当に面白いと感じました。自分が成長できるし、仕事を通じて得た人脈は財産です。これは、私が大学を卒業した20歳代から築いてきたものです。また、結婚・出産・育児から得た経験が私を育ててくれました。今、働いている人、これから働き始める人も、すべて経験して人生を楽しんでほしいと思います。女性活用について言えば、「10数年で確実に基礎固めができた」と思います。真の意味で、女性が活躍する時代がやってきました。ぜひ、女性にも男性にも頑張っていたらいいと思います。

制度を普遍的なものにして

霞が関(中央官庁)には「あけほの会」という女性の集まりがあり、そこへ人事担当者も招待

されます。育児などについて不安や悩みなどがあ

ことしは暖冬と言われているけれど、1月にもなるとさすがに寒い。「温かい食事や飲み物についで目がいってしまおう」という読者も多いのではないのでしょうか。そこで今回、登場するのがサーモスの「真空断熱フードコンテナ」です。本格的に吹く寒い日でもランチはあったか。フタを開けた瞬間、湯気がモクモクしてくるので心も体も温まります。それもそのはず、同社のテストでも6時間後の保温効力は61度以上(*)。スープやシチューも冷めません。広口なので具たくさんメニューにもおすすめです。また、フードコンテナを2つ持ちして片方にカレー、もう片方にご飯を入れておけば、食べる時によそいで！カレーライスのできあがりです。そして究極の技！ フードコンテナを使ってお料理ができちゃあんです。ちょっと下ごしらえをして、フードコンテナに投入、熱湯を注ぐとランチの時間には完成！即席かつ究極のランチのできあがりです。読者の皆さんも、ぜひ試してみてください。レシピは同社ホームページhttp://www.thermos.jp/recipe/foodcontainer/に掲載されています。サイズは0.5ℓ、0.38ℓ、0.3ℓ、0.27ℓ、



寒い冬でも私のお弁当は

あったかいんだからあ〜

0.25ℓの5展開。いろいろとそろえてメニューに応じて使い分けてみてはいかかでしょうか。また、保冷機能も万全！夏はそうめんや冷製スープを入れていても美味しいですよ。*0.5ℓでの保温効力。保温効力とは室温20度において製品に規定量の95度の熱湯を満たし、所定時間放置した場合の温度。

サーモス株式会社。サーモスは、世界をリードする魔法びんブランドとして1世紀以上の歴史を誇る。真空断熱技術を生かしたステンレスボトルやお弁当箱、保温調理器など数多くの製品を開発。電力など他のエネルギーを使わずに保温・保冷でき、繰り返し長く使えることから、生活のあらゆるシーンで活躍し、地球環境にも優しいライフスタイルを提案する製品を世の中に送り出している。

- ◇レシピ紹介(0.5ℓ使用) 「鮭とかぶのミルクシチュー」
かぶ(6等分のくし切り) 1個(100g)
しめじ(石づきを取る) 30g
水 150ml
玉ねぎ(薄切り) 30g
生 鮭 1切れ(100g)
塩・こしょう 少々
クリームシチュールー ひとかけ(25g)
牛乳 50ml
パセリ(みじん切り) 適宜
■作り方
1. フードコンテナにかぶ・しめじを入れ、沸とうしたお湯(分量外)を注ぎフタをせず5分以上予熱する。
2. 鮭は四つ切(大きめの一口大)に切り、両面に塩・こしょうをふる。
3. 小さめの鍋に水と玉ねぎを入れて沸かし、鮭を加えて火を通し、火を止めてルーを加えて溶かす。
4. 再び中火にかけ、とろみがついたら牛乳を加えて混ぜ、温める。
5. 1のお湯を切り、4を入れ、パセリをちらし、フタをして3時間以上保温する。

編集部談
「村木厚子さんの」仕事だけでなく結婚、出産、育児も楽しんでいる」という言葉が印象的だった。あ、B「ごめんね。事務次官まで動けなかった。あ、C「村木さんの第一印象は『穏やかな人柄なのに1つの信念を持った人』だった。38年も一線働いてきたが育児を両立する中でさまざまな経験や苦労をした人だから、その『重み』みたいなものがあつたよ。D「どんな企業も積極的に家事・育児をしたほうがいい。イクメンの先駆者だ。A「そういえば、女性活躍推進法が4月4日から施行されるけれど、企業にとっては女性にとっても正念場かもしれないよ。B「以前は女性が働き続けるための制度が整っていないことも多かった。C「最近働き始めた私たちから見ると、村木さんを始めとする先輩方と、制度が整ってきて女性の割合が増えている。今では、働き方が変わっているのは自然なことだと思う。D「別な働き方がある。社会が、もっと見えてきた。本音の意味で男女の区別なく働ける時代が来るのもそう遠くないかもね」

お問い合わせ: 株式会社日刊建設通信新聞社
カナリヤ通信編集部 03-3259-8711
ご意見・ご感想、「げんぼめし」は canaria@kensetsunews.comまでお寄せください

